

平成31年度 第1回四條畷市立図書館協議会会議録

1 日時 令和元年10月23日（木曜日） 午後3時00分から午後4時40分

2 場所 市民総合センター2階 集会室

3 出席

(1) 図書館協議会委員

○出席委員は次のとおり

福井 多恵子会長 高垣 聡美副会長 羽森 清司委員 乾 昭彦委員

平山 明子委員 辻野 栄子委員 大庭 つばら委員 北本もと子委員

小林 初根委員

※欠席：林 美香委員

※「四條畷市立図書館協議会運営規則 第6条」により、出席者が定数の過半数に達しているので協議会は成立

(2) 四條畷市教育委員会事務局の出席者は次のとおり

開教育次長兼教育部長 上井教育部次長兼学校教育課長

阪本教育部次長兼青少年育成課長

田中図書館長 福井分館長 井上図書館職員

4 議題 次のとおり

(1) 平成30年度主な図書館事業の実施状況について

(2) 令和2年度予算編成について

(3) その他について

5 本日の議事次第記録者 次のとおり

井上図書館職員

6 開会

(1) 事務局進行

田中館長

それでは、定刻になりましたので、ただいまより、平成31年度第1回四條畷市立図書館協議会を開催いたします。

本日は、お忙しいなか、ご出席いただきありがとうございます。なお、林委員におかれましては、所要のため欠席との連絡をいただいております。高垣委員におかれまして

は、同様に所要のため、終わり次第こちらに来ていただけるとのことです。

従いまして、本日の協議会は、委員数10人中、8人の出席をいただいておりますので、四條畷市図書館協議会運営規則第6条の規定により、本会が成立いたしますことをご報告させていただきます。

それでは、議事の進行でございますが、本日の協議会は今年度最初の開催でございます。会長、副会長が選出されるまでの間、事務局にて会議を進行させていただきますので、まず事務局の出席職員を紹介させていただきます。

以下 職員自己紹介

田中館長

それでは、議題に入る前に、事前にお配りしております資料の確認をお願いいたします。

1点 開催のご案内

2点 資料①平成30年度主な図書館事業の実施状況

3点 資料②平成31年度予算措置状況

以上が事前に配布させていただいているものになります。

次に、本日、机上配布させていただいております資料ですが、

① 予算編成方針

② 「谷口智則さんと絵本を楽しもう！」(絵本講座)チラシ

③ 学校図書館支援の様子

④ 協議会委員名簿

皆様、ございますでしょうか。委員名簿は、今年度は退任及び新任の委員がおられませんので、昨年度と変更はございませんが、念のため誤りがないかご確認のほどお願いいたします。

よろしければ、資料に沿って会議を進めさせていただきます。

まず、図書館協議会委員の任命書の交付でございますが、任命書の交付は、本来、お一人おひとり直接お渡しさせていただくところですが、時間の関係もございまして、失礼ながら、机上にて交付させていただいております。ご了承のほどお願いいたします。

また、今年度は新任の方がおられませんので、自己紹介及び図書館協議会についての説明を省略させていただきます。

それでは、続きまして、四條畷市立図書館協議会運営規則第2条に基づき、会長、副会長の選任をお願いしたいと思います。

まず、会長からお願いいたします。どなたかございませんか。

辻野委員

昨年度に引き続き、福井委員をお願いしたいと思います。

福井委員は、昨年度、会長を務めていただき、第3次子ども読書活動推進計画の審議をまとめるなど、尽力くださいました。流れもよくご存じと思います。差支えなければ、今年度も引き続き福井委員をお願いしたいと思います。皆さんはいかがでしょう。

各委員

(拍手)

田中館長

拍手で確認できたところです。福井委員をお願いします。

では、前の方の会長席に移動をお願いいたします。

それでは、福井会長に、一言ごあいさつをいただき、その後、副会長の選任と議事の進行をお願いいたします。

福井会長

ただ今ご推薦いただきました、福井でございます。先ほど大層過大な評価をいただき、ただただ恐縮するばかりです。微力ではございますが、これからの2年間、務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

昨年は先ほどから皆様におっしゃっていただいておりますように、委員の皆様の本当に熱心なご論議、ご審議をいただきまして、さらには事務局の皆様方のご尽力もございまして第3次四條畷市子ども読書活動推進計画が策定されました。これからの2年間、この任期は、この計画に基づきまして、具体的に、四條畷市の子どもたちのために読書の楽しみや読書を通じての人間形成の推進に我々がその一助となるように具体化していくこと、そして一般市民の方におきましては、生活に有意義な情報、潤いを与えるような情報を提供することができますように、市の図書館事業にわずかながらでも貢献できますように委員の皆様方のご尽力を得まして、一層、前に進めてまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

副会長の推薦について、どなたかご意見ございませんか。ご意見がなければ、今は来られていませんが、前年度副会長を務めていただき、図書館協議会に対して協力してい

ただき、なおかつ、日常的に図書館活動のボランティアを続けておられ、市の状況もよくご存じでいらっしゃるということからも、高垣委員に副会長をお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

委員一同

(拍手)

福井会長

今、いらっしゃらないのですが、いかがでしょうか。

田中館長

高垣委員には、もし推薦があった場合、皆様がよろしければ、お受けいただけること、了承いただいております。

福井会長

それでは、副会長には、高垣委員をお願いしたいと思います。

それでは、議事を進める前に、四條畷市立図書館協議会会議の傍聴及び会議録要領の第9条の規定により、会議録を作成する必要がありますので、同条第2項に基づき、会議録の署名委員を指名いたします。

本日の会議録署名者は、辻野委員をお願いしたいと思います。

辻野委員

わかりました。

7 議事の要旨

福井会長

議題1 平成30年度主な図書館事業の実施状況について、事務局から説明をお願いします。

田中館長

それでは、議題1 平成30年度主な図書館事業の実施状況について。資料①をご覧ください。

まず、図書館資料について

1 図書の(1)蔵書冊数は、25万4733冊で、約1,500冊の減になっております。減少の要因としては、昨年、書庫がかなり飽和状態となったことから、(3)年間除籍冊数の数字のとおり、思い切った除籍を行った結果でございます。

2の雑誌新聞は変化ございません。

続いて、利用状況について

1個人貸出の(1)利用のべ人数は、本館、田原合わせた合計が、8万383人と3,467人の減となっております。これに比例して、(2)貸出冊数も本館、田原ともに減となり、計約9,000冊の減となりました。

続いて、ページ変わり、登録者について

(1)登録者数は、8,737人であり、450人ほど減となりました。

(2)町丁字別登録者数は、例年と変化なく、田原地区の登録率が高く、外環状線より西側地区が低い状況でございます。

続いて、ページ変わり、年齢別統計の(1)年齢階層別利用者数は、7～12歳が約1,000人、41～50歳が1,600人ほどと、減少数が顕著となっております。

この要因は、従来、よく見かけられました小学生とその保護者が連れ立っての利用が、読書離れに少子化も伴って少なくなっているものと推測しております。

しかしながら、一方で、1ページの(2)貸出冊数において、小学生の利用が大きく減少しているなか、児童書の減少幅が少なく、ページ戻りまして、3ページの(2)実登録者数と利用者数の実登録1人あたり利用数(つまりリピート率)において、23～30歳、31～40歳の層の数値が上昇していることから、0～6歳の子どもとその保護者の組み合わせの利用はそれほど減少していない、また小さい子どものいる保護者が単独で来館して小さい子向けの本を借りるといった利用は増加していると考えられ、要因としては、ブックスタート等の取組みにより、ようやく読み聞かせが保護者に浸透し始めたものと推察しております。

しかし、リピート率は上昇しているとはいえ、のべ利用人数は23～30歳、31～40歳ともに減少していることから、繰り返し利用する保護者と、図書館を利用しない保護者と2極化している状況と考えられ、読み聞かせの普及を幅広いものにつなげる方策が必要と考えております。

続いて、その他のサービスについて

1団体貸出は、学校への貸出が減少し、保育所幼稚園への貸出が増加しています。

2個人予約は、インターネット予約が年々増加しています。

ページ変わりまして、5図書のリサイクルの③学校等団体へのリサイクル、除籍図書のうち、児童書につきましては、小中学校や保育所などの子ども関連機関へ、優先的に

譲与いたしました。計19団体、2,034冊でございます。

続いて、ページ変わり、行事等、その他の事業について

四條畷図書館では、従前の行事を継続、少しですが、おはなし会の参加人数が増加、一方で、人形劇が減少しております。

ページ変わり、田原図書館では、児童書の貸出冊数が減少するなか、おはなし会の参加人数はキープ、また新しい取組みとして子ども向けコンサートを開催、新しい利用者の掘り起こしを図りました。

ページ変わり、5子ども読書週間スタンプラリーについて

毎年恒例の取組みですが、昨年はのべ参加人数が1,000人を超えました。先ほど紹介した行事实績において、少子化傾向のなか、おはなし会の参加人数がキープできている要因として、ブックスタートに加えて、このスタンプラリーでのPRの反響もあるものと推察しております。

続いて、6学校図書館支援について

平成27年度から開始し、段階的拡充に努めてまいりましたが、昨年度も1校忍ヶ丘小学校を拡充、計7校の支援を実施いたしました。過去の新規拡充校と同じく、夏季休業期間を活用し、図書ラベルの貼替えや図書配置の変更等の大きな作業を行い、忍ヶ丘小学校では図書ボランティアの協力が得られ、例年より短期間で実施できました。

続いて、ページ変わり、ビブリオバトル市内中学生大会inなわてについて

一昨年から開始したビブリオバトル大会ですが、昨年度は、中学生大会に加え、小学生の部を実施、青年海外協力隊員としてソロモン諸島で読書活動普及の経験がある方を講師として招き、ソロモンでの活動の様子の講演とワークショップ形式でビブリオバトルを体験してもらいました。

以上、昨年度の主な図書館事業の実施状況でした。

福井会長

ただ今の事務局からの説明及び配布資料について何か質問等ございませんでしょうか。

辻野委員

昨年度、学校図書館支援について、忍ヶ丘小学校では、支援員の来られる曜日が決まっていて、それから、図書の時間も決まっていて、一年間、全く支援員に当たらないクラスがあるという課題が出ていたと思うのですが、その件の検討は、その後、教育委員会ではなされましたか。

田中館長

人材確保になかなか苦慮している状況でございまして、最初の方に支援を開始いたしました田原小学校、南小学校、東小学校は週4日間の支援ができておるのですけれども、後発で支援を開始させていただいている学校については、現在4日間確保できずに、3日間という学校もございまして。そういった学校におきましては、校長先生の協力をいただきまして、その3日間に図書の時間をきっちりと時間割のなかに割り当てていただいて、全クラスに図書の時間に支援員がいる状況を作らせていただいている学校もあるのですが、なかなかそうもいかない学校も確かにある状況で、まだ、支援員が図書の時間に不在という学校は確かに残っています。来年度以降、人材確保によりしっかりと取り組みまして、最終的には、全校週4日間、特に小学校には配置できるように努力してまいりたいと思っております。

辻野委員

ありがとうございます。

福井会長

ほかにございませんでしょうか。

団体貸出のところで、学校図書館への貸出が減って、保育所とか幼稚園とかが逆に増えています。これは、学校図書館が充実した、今まで、支援員を配置していただいた結果、その方のご尽力もあって、充実したととらえてよろしいでしょうか。

田中館長

そのような側面と、別の側面があると考えております。充実したほうの側面で申し上げますと、当初、学校支援を始めました頃は、活用できないと考えられる図書の除籍をたくさんいたしました結果、いったん、図書冊数が少なくなったという状況からスタートしましたので、図書館からの団体貸出で学校の図書室へ持って行って補うことがかなり冊数としてあったのですが、2年、3年と支援を行っている学校は図書の毎年の買いたしで充実して行って、展示を行うにしても各図書室で賄えるというような状況が出てきましたので、支援員の団体貸出での冊数も自然と減っていったというところが、大きな原因のとしてあったものと思っております。

また、別の側面としては、各学校の先生方が学校に来られて、団体貸出、クラス貸出を受けていくというのが、なかなか先生方もお忙しくなっておられるなか、年々少なくなっている印象があります。こういったところも伴っての減少かと思っております。

福井会長

ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

羽森委員

P.3、その他のサービス、団体貸出のところ。学校の団体数が42となっているのですが、この内訳はどのようになっているのでしょうか。

田中館長

団体数の算出の基準ですが、基本、カードを作っていた数で、1枚のカードが1団体としております。例えば、四條畷小学校で1年1組がカード1枚作っていただいたら1団体です。また、図書室でカード1枚作っていただいたらまた、1団体としております。

羽森委員

ありがとうございます。

福井会長

ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。

中学生、高校生の利用が少ないのですが、人口はこのあたりの年代は変わらないでしょうか。新生児は、出生が低くなっていると思いますが。小学校がどんどん減ってきていますから、その上に上がる子どもさんも減っているということなのでしょうか。

本より、スマホの情報に興味を持って行かれるから難しいと思いますが、前から言われておりますように、今後、この世代の掘り起こしというのも必要かと、統計からみて感じます。

辻野委員

先日、公共施設の再編の話のなかで、忍ヶ丘駅前とか四條畷駅前に図書館の出張所的なものを配置するといったことを聞いたのですが、それはどのような機能になりますか。貸出とか、あるいは返却のみになるのでしょうか。

開教育次長

今回、施設再編では、両駅に、就学前のお子さんを預ける機能と合わせて図書館を設置するというので、当初予定では、その方々が利活用いただけるような図書を用意するというところでしたが、8月にその内容を持って市長が地域に説明に行ったところ、さまざまなご意見をいただいたので、その意見を踏まえて、再度検討中という状況です。

辻野委員

決定ではないということですか。

開教育次長

子育て拠点がどうなるかによって、図書館もどういう年齢層の方々に働きかけをしていくかを検討される状況にあります。

辻野委員

町丁別の登録者数を見ると、毎回のことですが、西部地域はものすごく少ないですよ。やはりそれは、一つに距離が遠いと行きにくいということがあると思うのですけれど、施設再編のなかでは、南中学校跡地のほうに全部移転となると、ますます遠くなって、文化的なことから置き去りにされてしまうような気がします。そのことについて市長の答弁では、公共交通アクセスについて考えていらっしゃるいただきましたけれども、以前からあった、くすのき小の学校図書館を市民に開放するという話は、どうなっているのでしょうか。

開教育次長

8月にご提示させてもらった案によりますと、くすのき小学校に隣接する、市民活動センターにリサイクル図書室があり、その施設は、基本、廃止となり、体育館は、そのまま残すとなっています。

多目的ホールもあるのですが、くすのき小学校が空き教室を共用するということです。その延長線上には、図書館の一般開放のことも考えていかなければならないのですけれど、学校との十分な調整が必要になり、十分な議論は進んでいません。

辻野委員

どうなるのでしょうかね。西部地域は。

福井会長

長年の課題ですね。

図書館のスローガンで、いつでも、どこでも、だれでも といつも言うておりますけれども、この図書館協議会でも、これを第一の実現可能な方向に、市の方に常に申し出て、プレッシャーを与えていければいいのかなと思います。なかなか難しいとは思いますが、

いつも思いますが、ボランティアの皆さんが非常に熱心に活動してくださっています。その点で、市に協力できないかという思いもあるのですけれども、ただこれは、地域か

らそういう機運が醸成されてきて、実際に活動いただける方が何人か出てこないとなかなか難しいのではないかと思います。理想としては、いくらでも発信はできますけれど。そちらにお住まいの方がいらっしゃいましたら、そのような情報もこちらに伝えていただきまして、一緒に活動できればよいと思いますけれども。

平山委員

その流れで、四條畷中学校や忍ヶ丘小学校でボランティアの方が活動されているお話もあったと思うのですが、くすのき小学校のボランティアはどのような状況ですか。ボランティア活動のことがあまり聞こえてこないのですが。

田中館長

図書室で活動される図書ボランティアの方は、くすのき小学校では、一般の方はいらっしゃらない状況です。

平山委員

学校関係は、もちろん、子どもたちのために、大なり小なりはいらっしゃるのですけれども。

田中館長

確かに、以前先生として働いておられた方が、図書の時間のサポートの形としてお2人ほどいらっしゃることは聞き及んでおりますけれども、一般の方の図書ボランティアは、くすのき小学校ではいらっしゃらない状況です。

平山委員

そうですか。

辻野委員

西小学校と北出小学校が合併した時に、蔀屋地区でしたら、学校の図書館に蔵書を、もし家で余っている本があったら出してほしいという回覧があって、確か、図書ボランティアという形で、個人の保護者の名前で回ってきて、私も協力して、出さしてもらったことがあるのですけれども。そういうものは、今はもうないのでしょうか。

田中館長

現在は、いらっしゃらないと思います。

上井次長

学校内での図書ボランティアさんのあり方については、校長、図書担当者、なかにはPTAの役員とも連動させながら広く募集をかける学校もございますけれども、基本は

やはり学校でいろいろ方針を持って進めていくものかなと思います。今、お話がありましたように、くすのき小学校にも、過去、人数は多くなかったと思いますけれども、図書の整備をしていただいていたという経緯があります。

先ほど、中学生の読書離れの話があったかと思うのですが、四條畷中学校では図書ボランティアの精力的な活動もあり、子どもたちにも、図書館を多く利用してもらっていると思います。

他の2中学校に関しましても、図書支援員、あるいは学校の職員参画のもと、図書館はかなり充実してきているものと思っております。図書館の貸出冊数は、校内では、もちろん増減はございますが、学年で様々な取り組みもされ、非常に伸びた学年もあると聞いております。中学生の現状、図書館に行つてというところにまで至っていないものと考えておりますが、今回の第3次の推進計画では重点施策として挙げていただいているところですので、学校でも取り組んでいきたいと考えております。今ご意見いただきました図書ボランティアのあり方や地域から学校への寄贈も学校によっては実施しているところもございますので、また好事例として発信していきたいと思っております。

乾委員

中高生の年齢の子どもについておっしゃっていただきましたので様子をお伝えしますと、4月に全国学力テストがあります。そのときに、生徒質問紙というものがありまして、今年でしたら中学生は約60問あり、朝ご飯を食べていますかから始まって、どのぐらい勉強していますかなど、いろいろあるのですけれども、そのなかに読書が好きですかという質問がありまして、そう思う、思わない、どちらかというと思うなどの選択肢があります。

この4月は、3年生の結果が良くなかったのです。全国がこのぐらいとしたら、大阪府が少し下がっていて、本校はその下だということで、朝読書をしたり、ボランティアに来ていただいたり、新刊書を紹介したりしているのですが、なかなか難しいということとは実感しております。

読まないことはないと思うのですが、そのような結果でした。

(高垣副会長入場)

福井会長

今、高垣委員が来られました。ご不在でしたが、皆様のご承認を得まして、高垣委員に副委員長をとということでお願いします。

高垣副会長

よろしく申し上げます。

福井会長

それでは、続けたいと思います。昨年度の実施状況について、ほかに何かありませんか。それでは次に進ませていただきます。議題の2について事務局から説明してください。

田中館長

それでは、議題2について、資料にそって説明させていただきます。本日机上配布いたしました、予算編成方針をご覧ください。例年、10月は来年度に向けての予算編成が開始される時期でございます。今年度も10月15日付けで市長より予算編成方針が出されました。この方針を踏まえて、各課事業を取りまとめたうえ、11月5日（日）で来年度の予算要求を行うこととなります。事業を取りまとめるに際し、協議会委員方々のご意見をいただきたく、議題といたしました。まず、予算編成方針についてですが、要約いたしますと、3つの視点が掲げられています。

まず、3つの視点にいたる前段の説明ですが、要約いたしますと、世の中で長く続く伝統とは、時代に応じて変化し続けることにより、良いものとして受けとめられたからこそ残ってきたとして、この考えを自治体にあてはめ、本市ならではの魅力～住民との距離、迅速な対応、他部署との連携などの小さい市だからこそできるきめ細かいサービス～を持続可能なものにするため、働き方改革、行財政改革など、今すべきことに取り組み、変化し続けなければ、2040年までに消滅可能性都市が896あるとされるなか、生き残れないとしています。

そして、変化するための視点として、次の3つが掲げられました。

① 今まで実施している事業を、ただ単に続けていないか

各事業において、効果的であればさらに投資をする、あるいは、想定した効果が出ない場合は見直す、という判断ができていないか。そのためには、判断する基準の設定と、それを検証する仕組みが、かならず必要である。

② 実施している事業の効果を上げるために、市役所だけで達成しようとしていないか。

官には官の、民には民の、学には学の、それぞれ強みがある。更なる行政サービスを提供するために、連携できる主体はないか。ただし、単にお願いをして協力し

てもらおうのでは継続性がないため、各主体にとって利がある枠組みを構築することが、必ず必要である。

③ ずっと同じ方法で事業を実施していないか

科学技術の進歩は著しい。活用することで、住民にとっても、職員にとっても、利便性の向上に繋がる。市役所の中だけでずっと仕事をしていないか。積極的に先進事例を外に学びに行く姿勢が、必ず必要である。

以上、持続可能なまちづくりの実現に向けて、この3つの視点を踏まえて、予算要求を行うこととなります。

次に、ご意見をいただく参考といたしまして、資料②「平成31年度予算措置状況」をご覧ください。

まず、1利用者サービス事務についてですが、予算内容は非常勤職員報酬、行事開催謝礼などでございます。前年度からの増減としましては、非常勤職員、臨時職員が各一人ずつ減額されまして大幅な減額という形になってございますけれども、非常勤職員は実質昨年から一人減となっております、代わりに司書の正規職員を一人補充、臨時職員につきましても本年8月に現場業務の正規職員一人が補充されておまして、現在は職員数増減なしの実態にございます。行事開催につきましても、土曜日のおはなしかい、隔月ごとの人形劇、年4回の乳幼児向け行事など、前年同様に開催している状況でございます。

続いて、2 図書館資料関係事務について、予算内容は書籍・雑誌の購入、資料データの電子化のための委託料、そして図書購入費などでございます。前年度からの増減といたしましては568,000円の減額ですが、うち450,000円は資料費が田原図書館へ移動したものであり、残りはここ数年間続けて皆無の状態となっている寄贈CDのデータ電子化委託料を減額したもので、また受入れした資料に貼るバーコードラベルの在庫がなくなってきたものを、前年度に臨時で作成した経費を元に戻したものでございますので、減額といえども実質差支えのない状況でございます。

続いて、3図書館協議会関係事務について、予算内容は図書館協議会出席報酬でございます。120,000円の減額となっておりますが、子ども読書活動推進計画策定にかかる審議のため、2回分前年度増額となっておりましたが、通常の2回開催になったものでございます。

続いて、4障がい者サービス関係事務について、予算内容のところですが、他の事業の内容となっております。ここで訂正です。正しくは、予算内容の部分、ボランティア団体への報酬費計6,000円、資料購入費92,000円、文具等消耗品6,000円、障がい者サービス関係協議

会の会費が30,000円でございます。修正をお願いいたします。

続いて、5ブックスタート関係事務について、予算内容は赤ちゃんへのプレゼント用書籍の購入費などでございます。少子化傾向により出生数の減少から、予算は減少傾向にありますが、今年度も毎月4か月検診で絵本のプレゼントをできており、小さいころから親子で本に親しむことの大切さをPRできる貴重な場となっております。

続いて、6図書館管理運営事務について、予算内容は、非常勤職員報酬、通信料、図書館システム保守委託料、コピー料金、ガソリン代他公用車関係費用などでございます。今年度約1,700万円と高めの増額になっているのは、現在使用している図書館システムの入替えによるものでございます。11月下旬に入替え作業ののち、12月3日に新システム稼働の予定でございます。

今回のシステム入替えのポイントといたしましては、インターネット蔵書検索において、本の表紙が表示される機能、また、WEBサイトの利用者自身のページにお気に入りの本を記録しておける機能、他の利用者と借りた本の冊数を競争できる機能など、利用者向けWEBサイトに新たな機能が追加され充実が図れたほか、窓口に貸出資料に対するレシートを打ち出すプリンターを導入する予定でございます。また、レシートを活用し、来年度、子ども向けの読書手帳を作成し、子ども読書活動の推進に活用できないか今検討しているところです。

続いて、7田原図書館管理運営事務について、予算内容は非常勤職員報酬、行事開催謝礼、また書籍雑誌購入、図書購入、視聴覚資料購入費などでございます。予算増となっておりますのは、本館から資料購入費を移動したためでございます。

一方で、視聴覚資料のCD購入費が13万円の減額、人形劇開催費用が1回分減額となっております。

今年度は、そのほかに、ふるさと納税を活用した読み聞かせ講座の予算が措置されてございます。本日机上配布いたしましたチラシをご覧ください。11月9日に谷口智則さんの絵本講座として開催いたします。後ほど分館長から説明させていただきます。

続いて、ビブリオバトル開催事務でございます。連番は、8の記載間違いでございます。修正をお願いします。予算内容としては優勝賞品です。減額となっておりますのは、ライオンズクラブからの助成があったためです。今年度は9月に開催いたしまして、昨年ワークショップで開催した小学生の部を今回から正式に小学生大会とし、中学生大会と同じく議場で実施いたしました。持ち時間を余らしてしまう児童もおりましたが、どの児童もよくまとめられた発表内容で、かつ堂々とした話しぶりで思っていた以上に頑

張っていました。小学生大会の導入により、中学生大会の一層の活性化につなげたいと考えております。ちなみに結果でございますけれども、中学生大会のチャンプは四條畷中学校生徒、小学生大会のチャンプは田原小学校児童という結果になりました。

続いて、学校図書館支援事務について、予算内容は、非常勤職員報酬とパソコンの入替えなどがございます。予算増額となっておりますのは、1校拡充のための非常勤職員報酬費でございます。今年度の拡充は四條畷小学校で、この拡充により小学校7校の全校配置が完了いたしました。来年度は小中学校を含めて全校配置に向けての拡充を予定しております。

学校支援の様子でございますけれども、写真が並んでおります机上配布の資料をご覧くださいいただけますでしょうか。

田原小学校の図書室全体の様子で、小中学校のなかでも最も広い図書室ということで、書架を増やして、本を見せることで生徒たちの関心を引くように工夫しています。

東小学校ですが、図書室の廊下側の壁の掲示板に興味を引きそうな新聞記事を掲示しています。市立図書館に長年勤めたベテランの司書が工夫を凝らして支援にあたっています。

南小学校ですが、6年生が作成したPOPを図書室に並べまして、図書紹介をしています。小規模校の特長を生かしまして、先生方と密なコミュニケーションが取れている状況ですので、児童と連携した取組みも行っております。

忍ヶ丘小学校でございますが、カウンターの横でおすすめ本を展示しているのと、カウンターを華やかに飾りつけしています。こちらの支援員は、バースデープランナーという資格を生かして、飾りつけに工夫をこらしています。

また、ボランティアの方も長く活動しておられるので、元々支援に入る時に室内がきれいな状態でしたが、雰囲気を出すことに工夫を凝らした活動をしてございます。

次に、くすのき小学校ですが、読書の習慣が定着している子が少ないということで、図書担当の先生が目標を立てまして、目標達成した児童については、図書室に名前を貼り出す形で掲示して、読む習慣の定着につながるモチベーションを上げるような取組みをしてございます。

次に、岡部小学校ですが、真ん中の丸型の書架を生かしまして、全体の雰囲気を盛り上げて、親しみのある図書室を出す工夫をしてございます。

次に、西中学校です。中学校ということで、部活動に密着した本の展示をして、生徒

たちの興味を引くようにしています。1月の協議会の時に高垣副会長から西中学校の掲示板の話がされていたと思うのですけれども、掲示板に自分が読んだ本について一言書いて貼ると、他の生徒たちがそれを見て読書のきっかけにするような取組みをしております。

よく見ていただきますと、丸い小さなシールが貼られているかと思えますけれども、これを見て読んだ場合はシールを貼ってもらうようにしており、紹介した生徒のモチベーションになるといった形の取組みもしています。

今年度から、支援を開始しました暁小ですが、写真を撮れておりませんので、資料で紹介できなくて申し訳ないのですが、夏季休業中に図書ラベルの貼替えや図書の配置の大幅な移動などの活動を支援員にさせていただきました。

その成果で、本を探しやすくなっている状況と聞いております。以上、学校図書館支援事務についてでございます。

最後に、その他の事業として、ふるさと納税予算措置の3万円で田原図書館の読み聞かせ講座を行います。

以上、今年度の予算編成方針、措置状況及び取組み状況でございます。以上を踏まえて来年度に向けてのご意見をいただきたいと思えます。大きな枠組みといたしましては、本日午前中に開催されました教育委員会定例会でご了承いただいております。こちらの協議会では、専門的な立場から、個々の事業について、具体的な意見をいただければと思っております。

なお、来年度、現在予定している重要な事業として改めてまとめますと、新システムを活用した子ども読書活動推進に資する取組みとして、レシートプリンターを利用した読書手帳の作成についてコピー代の増額を要求してまいりたいと思っております。

また、学校支援の拡充として、全校配置に向けて、1校拡充の要求をしてまいりたいと考えております。

また、子ども読書活動推進計画の重点施策である中学生の読書離れ対策としまして、市立図書館蔵書の学校への取寄せの充実、具体には、館内閲覧扱いになっていた図書館から図書室への貸出を、中学校においては家に持って帰ってもらえるような仕組みを構築したいと考えております。こちらは、予算といたしましては、増額なく対応できるかと考えております。

また、来月開催の谷口さんの絵本講座の反響を見ながらになりますが、引き続き読書

に関する市民講座を開催したいと考えております。

こちらは今年度同様にふるさと納税の活用、あるいは、単独での予算要求で対応してまいりたいと考えております。以上、説明でございます。

そうしましたら、分館長から、お配りしております谷口智則さんのイベントの説明をさせていただきます、そのあと引き続いてご意見をいただければと思います。

福井分館長

それでは谷口智則さんの講演会の説明をさせていただきます。なぜこの講演会をするのかですが、図書館からの情報発信が今まで欠けていたのではないかと考えております。

例えば、楽しい行事をして来てもらうということだけに集中しまして、肝心な読書教育といえますか、子どもたちが本を読む、親が絵本に関心を持つようになるというような発信がたりなかったという反省をもとに、本年度2段階の事業計画を構築いたしました。

今回の谷口智則さんの講座はその第1弾として、谷口さんに講演をお願いしたいと4月に相談に伺いました。ほんとうにわずかな予算ではありますが承いただき、講演を行う運びとなりました。

今までと一つ違いますのは、ライブなどをされていましたが、この度は、父親の立場から自分の作品の構成などを語ってみたいということでしたので、そのような構成でお願いしまして、読み聞かせも自分の作品を含めてご紹介いただきます。

講座のタイトルどおり、読み聞かせで子どもの想像力をはぐくみ、絵本の大切さを皆さんに知っていただきたいという内容で、第1弾の講座として行います。

日曜日から募集しまして、現在、70人の応募がございます。目標を50人にしておりましたので、一応オーバーしている状況でございます。

次の展開についてです。チラシ記載のとおり3歳以上、小学生まででございますが、一定、谷口さんの本が理解できる年齢の子どもための講座を11月9日に実施の後、第2弾としまして、岩出恵子さんによる2回連続講座を行います。

まず、0歳からを目標にしまして、親子で楽しむ絵本と題して、親子で絵本の読み聞かせやわらべ歌を楽しみながら教えてもらうものを1講座、それから、親だけを対象に、素晴らしい絵本の世界と題して、絵本の中身について学んでいただきたいと思っております。

この回は、地域ボランティアの方も含めまして実施したく、一步前へ出るような活動

が必要と、このような講座を考えております。

ちなみに、明日、田原小学校の子どもたち、3年生91人が田原図書館に来ますので、こういうことも受けまして図書館となじんでいただきたい。私どもの意向は、学校図書館プラス公共図書館があると考えております。

学校図書館に固定せずに、学校図書館と田原図書館をダブルで使っていただき、結果として、田原小学校の子どもたちの学力向上や本を一生友達にできるような方向性をもって行事をやっていきたいと考えております。

福井会長

それでは、令和2年度の予算編成に向けてご意見、ご要望はございますか。市長からのメッセージ、なるほどと思うことばかりですけれども、先ほど乾先生からお話しいただいたように、朝の読書とかいろいろやっているけれども、なかなか明確な効果は難しい。

読書に関しましては、やはり、もっと小さい、それこそ0歳児からの積み重ねでいくものですから、一朝一夕には達成しないと思いますので、地道な活動に伴う予算措置というのは現状維持プラスアルファでお願いできればと思います。

財政事情はいろいろ大変なこともよくわかりますが、図書館事業に関してはわずかでも結構ですが、増額の方でお願いしたいと思います。

見せていただいた資料では、行事もそんなに費用をかけてはいない。皆さんの厚意、てづくりでいろいろやっていただいているという印象です。

辻野委員

ビブリオバトルの小学生、中学生大会での選出方法は自発的なものですか。それとも先生の説得など受け身ですか。

乾委員

学校ごとに様々かと思います。去年は国語の時間に取り組んでもらいました。今年は9月7日の開催で、日にちがだいぶ早まったので、四條畷中学校では、夏休み前に希望者を募りました。そうしましたら二人が応募してくれました。畷中学校では、希望してくれました。学校によっては、校内でビブリオバトルをして得意な生徒を選んでいると思います。

平山委員

何年前にくすのき小学校の見学に行かしてもらったときにも学校でビブリオバトル

に取り組んでいるという話があったので、各学校でそういう取組みを始めたんだなど楽しみがありました。去年から中学校、今年は小学校もあって、ちょっと期待していた部分があったものですから、残念という思いがありました。

田中館長

小学校高学年と中学校の男女の読書の傾向についてですが、昨年度の図書館の利用で申しますと、中学生は貸出冊数、登録数共、あまり変わらない状況です。小学生の方が女子が若干多いという状況です。

平山委員

ボランティアや図書館関係者も頑張っているけれども、習慣的なもので、家での環境が第一なのでしょうね。

田中館長

いろいろ本で勉強しておりますと、読書習慣の定着で一番大事なのは家庭での環境と書いてあるものが多いです。

羽森委員

小学校の話が今出ていましたけれども、今回、高学年しか出られないという枠組みがありました。私が見ているのは、男子でも女子でも図書館で本を読みたいという子はいらっしゃるし、本が好きなものもそんなにかわらないと思います。

高学年になったときに、発表してみたいという子どもたちのなかにやはり女子のほうが多かったという印象です。本校ではいつも本選に出場する子どもたちを、一度みんなの前でやって、市の方へ行ってもらうのはどの児童がいいかというのを決めているのですけれども、そうしているおかげで、出場している児童だけでなく見ている児童にも浸透していったような印象をここ2年間受けています。

上井次長

今、校長先生方からも学校での取組みの話がありましたけれども、学校での読書活動の取組みとしましては、小学校の場合は各学級週に1時間図書時間で図書室に行って本を読むとか、あるいはそこで読み聞かせをしてもらうとか、状況によってはその中で読書紹介、ビブリオバトル的なことを見せていただくということを行っているとお聞きしております。

中学校の場合、授業時数の関係もありまして、そうした時間というのは確保できていない状況にありますけれども、小中間わず、国語科の教科書でも本の紹介や、教材とな

る物語の作者の他の作品を読み比べてみようということもしておりますので、少なからず本と接する機会は、今までの教科書の流れからみますと、より近年力を入れてきている状況でございます。

福井会長

まだ始まって3年程度ですね。徐々にこれから浸透していけばよいと思います。先生方のお話をお聞きしまして、それぞれのできるところでできるだけのいろいろな努力をさせていただいております。今後も引き続きよろしく申し上げます。ほかに、この予算編成に関しましてご要望、ご意見はございませんか。

新しいコンピュータシステムが導入されて、あと一か月ほどで稼働します。12月3日からですね。一般の利用者に対してはレシートが、貸し出した本が打ち出されるということですか。

田中館長

窓口で貸出をした際に、今までは返却予定日を書いたスリップを一枚挟んでおりましたが、スーパーのレジのレシートのようなものが打ち出されます。そのレシートに、貸出処理をした図書名と返却期限が一覧になったものをお渡しするということになりますので、自分が何を借りて、それがいつまでかというのが1冊ごとに管理できるようになります。

そのレシートを活用し、お薬手帳のような形式の読書手帳を子ども向けに作りまして、読書のモチベーション向上などに活用していければと、来年度に向けて考えております。

福井会長

スーパーのレシートでしたら、本日のポイント数などが表示されると思うのですが、図書も今まで何冊借りましたというのが表示されるのですか。

田中館長

今までの累積の貸出冊数は出ません。印字されるのは、今、貸出処理をしたもののみになります。

今までの記録を読書手帳にレシートを貼っていくことで残していただければと考えております。

北本委員

先ほどの説明で、パソコンのインターネット予約で冊数を競うというようなことをおっしゃっていたのが理解できなかったのですが。

田中館長

新システムでは、利用者向けの WEB サイトにおいていろいろな機能が充実しているのですが、その一つに、他の利用者と貸出冊数を競うことができる機能が入っております。具体的に申し上げますと、図書館側で、ある一定期間、競争する設定をします。

メーカーがつけた名称としては読書マラソンですが、利用者へ参加の呼びかけをしたら、その WEB サイト上で、利用者が参加登録すると、登録者のなかで、今何番めに貸出冊数が多いかを確認できるようになります。

これも、読書活動のモチベーションにしていきたいと考えております。

福井会長

個人でもそうですが、団体貸出の学校ごとに競い合えるかもしれませんね。

田中館長

令和2年度の予算編成について、特に今申し上げたような子ども読書活動推進計画に関連する施策を中心に、これまでの経過も踏まえながら、また、市長の予算編成方針を意識しつつ、予算要求を行うということで共有できればと思いますがいかがでしょうか。

福井会長

結構です。その方向でお願いします。どのような予算措置がされたかという結果がわかるのは来年度ですか。次回では難しいですか。

田中館長

例年どおりのスケジュールですと、11月5日が予算要求期日で、その後、1月末か2月初旬あたりに予算の内示となります。

次回の図書館協議会は年度末あたりに開催予定ですので、その時には報告させていただけると思います。

福井会長

次に、第3番の議案、その他、何かご質問等ございませんか。事務局の方から何かございませんか。

田中館長

ございません。

高垣副会長

先ほど、講演会について、谷口さんの講演会の後、新たな企画をされるとおっしゃっておりましたが、これは、田原図書館独自の企画ですか。

福井分館長

田原図書館独自の企画です。申込みは市全域で行います。谷口さんの講演について、先ほどの追加説明ですが、谷口さん自ら賞品を提供のうえ、感想文を募集するコンクールを提案いただきました。1月12日に田原図書館で作品コンクールの表彰式をする予定です。

福井会長

ほかにごいませんか。最後に、高垣副会長から挨拶をお願いします。

高垣副会長

今日は遅れてきまして申し訳ありません。今年度第1回の会議お疲れさまでした。引き続き同じメンバーでこのような会をもてることをうれしく思います。

去年、おとしでたくさん話し合った内容を少しずつそれぞれの立場で進めていければよいと思っております。

自分の家族からはじまり、たくさんの方とお付き合いのできる場所で、できることをともに、次回の協議会の時により話を発信できればと思っております。

今日前半の会議には出られなかったのですが、自分としては意見といえるものはないですけれども、西中学校の近況をお話いたします。

昼休みは文化会員が貸出返却の担当をしてくれているのですが、一応、見守り役として私たちボランティアから1人出席させていただいています。

放課後よりも昼休みのほうがたくさんのお子どもたちが来ていて、男女比はそんなに変わらない感じです。

最近では、先生と同じようにいろいろ尋ねてくれるようになりました。少しずつ成長してきたと思っております。

今日は会議お疲れさまでした。ありがとうございました。

福井会長

それでは、これで、第1回図書館協議会を終了します。

上記議事録の顛末を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和元年10月23日

四條畷市立図書館協議会会長 福井 多恵子

同 委 員 辻野 栄子